媒体S 広49 15版 共通 [頁:57] 2008/8/24 山陽 69.61% SLDT4 @大刷り
Thu Aug 21 15:07:33 2008 アノテーション=地方要素なし JOB番号:01200808211507085891

持続可能な循環型社会へ

座談会「廃棄物の適正処理に向けて」

わが国は大量生産、大量消費、大量廃棄で高度成長を成し遂げてきた。しかし、地球規模の環境問題が重要視される中、廃棄物を再利用する循環型社会の構築が求められている。いかに"ごみ"を減らし、環境にやさしい持続可能な社会をつくりあげていくか、関谷洋輔岡山県環境保全事業団理事長、福田伸子岡山県生活環境部長、田中勝鳥取環境大学教授に話し合ってもらった（文中敬称略、司会は藤原知明山陽新聞論説委員会主幹）。

出席者（順不同、敬称略）
岡山県環境保全事業団理事長 関谷 洋輔
岡山県生活環境部長 福田 伸子
鳥取環境大学教授 田中 勝

廃棄物の現状

藤原 岡山県の廃棄物の処理状況、実情はどういうレベルなのか。

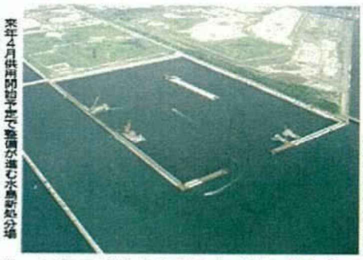
福田 ここ数年環境問題がクローズアップされて、県民の意識も高まりごみの減量化が進んでいるが、一般廃棄物は、まだ一人当たりの排出量が一日一㌔を超えている。産業廃棄物の最終処分量は、二〇〇〇年から〇四年までに中間処理による減量化・再利用が進んだためほぼ半減したが、一層促進する必要がある。

藤原 処分量が減ったとはいえ、結局ごみが最終処分場まで来てしまうという現実がある。産業廃棄物の処理について事業団の設立のきっかけ、事業の中身、今の最終処分場の現状などを教えてほしい。

関谷 一九七四年の設立以来、住民のニーズにこたえ、行政と協調しながら、産業廃棄物の最終処分場をはじめ、環境保全の幅広い事業を行っている。最終処分場の処分量は少しずつ減っているが、現在の最終処分場の容量が残り少なくなってきている。将来にわたる県民の生活環境の保全と県内産業の健全な発展を図るため、公共関与による産業廃棄物処分場を、来年四月の供用開始を目指して建設しているところだ。

藤原 処分方法として埋め立ては妥当なのか。

関谷 将来的には埋め立てという方法は、処理の仕方の中では限りなく小さくなっていくだろうが、当分の間は埋め立てることが、経済的にも安心できる方式だと思う。公共的な責務を担っているとの認識のもとで、埋め立てされる物の、受け入れ検査をし、埋め立てた後の処理や周辺環境も十分チェックし、土壌もちゃんとフォローしていく。安心して埋め立てを任せてもらうのがわれわれの役目だ。最終処分する廃棄物をできるだけ少なくするための減量化の実施や廃棄物の適正処理にご理解をいただきたい。


来年4月供用開始予定で整備が進む水島新処分場

藤原 今後、われわれが廃棄物の減量化や適正処理を進めるために、考えなければならないことは何か。

田中 生産者は廃棄物にならないように設計し、リサイクルしやすいように素材を選択する。つまり、環境に配慮した製品をつくる、あるいはサービスを供給するということが求められる。一方消費者は、できるだけその商品を大切に長持ちさせて、もし壊れても修理して使用時間を長くする。それが廃棄物発生の抑制につながる。しかし、経済的あるいは技術的にできないものがあるので、埋め立て処分場も必要不可欠だ。資源をいっぱい使って埋め立てる量を減らすということをしてはならない。つまり、資源の保全ができる社会、そして環境汚染をしない社会が循環型社会だ。そのためにはどうしたらよいかを、すべてのセクターが一緒に考えそれを行動に移すことが重要だ。

減量化をさらに促進 福田
発生抑制の行動必要 田中
新最終処分場を建設 関谷

ふくだ・のぶこ 1951年生まれ。神戸大法学部法学科卒。75年岡山県庁入り。岡山地方振興局地域振興部主任、津山地方振興局総務振興部県民環境課長代理、生活環境部県民生活課長、同環境管理監など経て現職。

たなか・まさる 1941年生まれ。京都大工学部衛生工学科卒。70年、米ノースウエスタン大大学院博士課程環境衛生工学専攻を修了、工学博士取得。岡山大環境理工学部教授、同大大学院環境学研究科COE特任教授など歴任。2008年より現職。

3Rの推進

藤原 循環型社会の輪を、いかに切れ目なく大くしていくかが大事だ。県の方針は。

福田 環境に関する総合計画として、新岡山県環境基本計画（エコビジョン2020）を昨年度策定した。その中で四つの基本目標の一つとして「循環型社会の形成」がある。その中に大きな柱として「3Rの推進」を挙げている。3Rというのは経済活動の仕組みの話だ。製造業者はごみをなるべく出さないように作り（リデュース）、作られたものは何度も使う（リユース）。また使えなくなったものを再資源化する（リサイクル）。それから、行政の一つの率先行動として「グリーン購入」を行う。また、技術革新などによりすべてが循環の輪の中に入ってしまえば、最終の処分量は限りなく減るが、その前段階として「廃棄物の適正処理の推進」を行う。不法投棄などをさせない適正な処理の推進だ。この三つを循環型社会の形成にあたっての県の三本柱としている。

藤原 実際問題、3Rを推進するとはどういうことか、事業団の活動内容を教えてほしい。

関谷 一つには、ある人にとっては廃棄物だが、他の人にとっては宝の山という部分は結構あると思う。事業団は岡山県から循環資源総合情報支援センターの指定を受けていて、循環資源のマッチングシステムをつくっている。「こんな廃棄物が出ている」「その廃棄物を利用してみたい」という人に登録していただく。そして私どもが仲人し、利用できれば廃棄物の減少になる。「提供しましょう」という方がここ二、三年で約二百件。一方、「利用したい」という方が半分くらいいて、取引が成立したのは十件程度、お見合い中も四、五件ある。それからリサイクルの情報システムという形でホームページを立ち上げた。県内で「リサイクルの技術を持っている」「リサイクルの設備、施設を持っている」「リサイクルでこんな商品を作っている」といった情報を登録し、リサイクル相談拠点になっていく。また、これまで培ってきたノウハウを活かし、廃棄物関連コンサルタント事業を立ち上げた。これらは、今後さらに充実させたい。

かじ取り非常に重要 田中
資源の活用事業展開 関谷
環境基本計画を策定 福田

藤原 最終処分する量を極力少なくするテクニックもまた革新が進んだのでは。事業団での取り組みを教えてもらいたい。

関谷 中間処理場には、下水汚泥や廃プラスチックが持ち込まれるが、焼却処分をして減量化し埋め立てている。また、下水汚泥と廃プラスチックを混ぜ合わせ、効率的に燃焼させるとともに、発生した熱を利用して電力に変えて、事業所内の電力の約85%をその発電でまかなっている。そういう形でわれわれ自らもリサイクルを実施している。

藤原 リサイクルをしたり、再利用したりすることは環境に優しいとみんな分かっているが、現実に高コストになると期待はずれという気になってくる。

田中 環境汚染をしないあるいは環境負荷を少なくするということ、資源を保全するということ、それをできるだけお金をかけないでやるということの三つの物差しで、いい・悪いを[illegible]要以上に[illegible]処理を選[illegible]コストが[illegible]らず、[illegible]を使う[illegible]する。[illegible]いのがい[illegible]棄とか、[illegible]になって[illegible]いものに[illegible]例が豊[illegible]ど、全国[illegible]ている。[illegible]もわずか[illegible]するため[illegible]使って集[illegible]の辺も三[illegible]判断すべ[illegible]保全のた[illegible]を無駄に[illegible]ない。私[illegible]〝戦略的[illegible]メント〟[illegible]のだが、[illegible]つくるの[illegible]非常に重[illegible]はない。[illegible]別した方[illegible]中間処理[illegible]した方が[illegible]いうのも[illegible]る。そし[illegible]できる処[illegible]なるべく[illegible]済的な最[illegible]処理を選[illegible]していい[illegible]

今後の展望

藤原 循環型社会の形成というのは、地球の限られた資源をいかに子や孫、その次の世代に大事に引き継いでいくか。その大切さをやっと本気で考え出したというのが今の国際状況だと思う。これからの課題とやるべき方向性は。

福田 エコビジョン2020や昨年三月に策定した県の第二次の廃棄物処理計画では、最終処分量の減量化など数値目標を立てている。その目標達成へ向けて事業を進めていく。そして県の本当の大きな役割というのは普及啓発だろう。ねばり強くやっていきたい。特に環境と経済については「環境のことばかり言って経済活動がうまくいかなければだめだ」と言われるが、環境あっての経済活動で、逆に環境技術の革新によって、経済活動がさらに活発化することもあると考えている。

せきや・ようすけ 1942年生まれ。早稲田大理工学部応用化学科卒。65年、株式会社クラレ入社。取締役岡山工場長、クラレテクノ株式会社取締役副社長、同代表取締役社長など歴任。2008年7月より現職。

関谷 事業団としては、楽しみながらエコ活動が継続的にできるような仕掛けをいろいろしようと思う。そのために昨年、岡山市中心部に「アスエコ」というサテライトを設け、パネルやパンフレットで紹介している。併せて、「環境学習出前講座」を小学生、中学生を対象に実施。昨年は二十回行い、約千人の子どもたちに話を聞いてもらった。また「処分場見学バスツアー」を企画して、たくさんの親子に参加いただいている。ごみを減量化して埋め立てしていること、環境汚染を防止する管理方法や埋め立て後の緑地化の様子を通して、周辺環境との調和を認識していただきたい。今後も皆の「もったいない」という社会、考え方に帰るお手伝いができればと思っている。

継続的エコ活動推進 関谷
環境重視し普及啓発 福田
広域的な動きへ拡大 田中

藤原 ごみの行く末を見れば、環境について深く考えるきっかけになるだろう。事業団の置かれている立場、役割は重要だ。

関谷 事業団は環境保全に対して直接的に大事な役割を担っている。県民の生活を支え、県内の企業活動の維持発展という面でも埋め立て処分場は必要だ。三十年前に建設した現在の処分場に比べ、建設中の処分場に見込まれる建設費、運営経費の増加への対応について、経費削減は今後も努めるが、ご利用いただいているみなさまにもご理解をお願いしたい。

藤原 今、日本では、あたりまえのようにごみが集められ、中間処理して、最小のごみになり埋め立てられるシステムが守られている。しかし、われわれの社会は、ひとつ間違うと大変なことになる。そのあたりの重要性がもうひとつわかっていないところがある。そういったことをもう一度考え直してみないといけない。最後に田中先生に循環型社会形成に何が大事かということを総括していただきたい。

田中 一つ目は発生源の取り組みだ。「リデュース」つまり、ごみの発生抑制が非常に大事だ。発生源で分ければ資源になるということを強調したい。家でも事業所でも、分ければ資源になるが混ぜてしまえばただのごみ。分別[illegible]るものを[illegible]「それな[illegible]いう人が[illegible]ると、[illegible]になる。[illegible]的取り組[illegible]模の資源[illegible]規模の環[illegible]うと思う[illegible]界中が手[illegible]解決しな[illegible]発途上国[illegible]で、先進[illegible]ウハウを[illegible]の限られ[illegible]にしよう[illegible]形成の良[illegible]日本から[illegible]環、ネッ[illegible]げていく[illegible]岡山県か[illegible]利用が始[illegible]そしてア[illegible]的な循環[illegible]とすばら[illegible]

水島産業廃棄物埋め立て処分場で行われた見学会

企画・制作／山陽新聞社広告局

「ふるさとの未来を創造する総合環境リーダー」を目指しています。

環境保全のための各種事業を幅広く実施し、快適な地域社会の実現に貢献しています。

廃棄物・循環資源事業
●埋立処分（水島処分場）
●中間処理（水島クリーンセンター）
●廃棄物コンサルタント
●循環資源情報提供（岡山県循環資源総合情報支援センター）
●公共建設残土センターの管理運営
●資源循環化センターの管理運営

環境調査事業
●検査分析
●環境アセスメント
●生活・自然環境調査
●大気測定局保守管理

環境緑化事業
●緑地設計施工・管理
●環境緑化コンサルタント

環境保全事業
●環境学習センター（アスエコ）運営
●環境保全思想普及活動
●環境セミナー
●エコツアー
●地球温暖化防止活動（岡山県地球温暖化防止活動推進センター）
●岡山県自然保護センターの管理運営（指定管理者）

財団法人 岡山県環境保全事業団 OKAYAMA
岡山市内尾665-1 TEL.086-298-2122(代表) http://www.kankyo.or.jp

配置後訂正 □ □ □ □ □ 掲報未配置 □ □ □ □ □ 不在文字 □ □ □ □ □ 画像抜け □ □ □ □ □ 記事抜け □ □ □ □ □ 組余し □ □ □ □ □ 割付不正 [U01//]
媒体S 広49 15版 共通 2008/8/24 山陽 0:00:23 15版::C色:14:04:00 @